

農業・漁業の概要

本地域は静岡県東部に位置し、東は浮島沼・沼津市、西は静岡市に接し、北は富士山頂付近に至り、南は駿河湾を臨み、気候は概ね温暖である。

地形は赤渕川を境に西側は富士山系、東は愛鷹山系に二分され、前者は南へ緩やかに傾斜した階段状の丘陵地帯をなし、後者は南に急傾斜した畑地を擁していずれも海拔5メートル付近から平坦地帯に連なる。

地勢については、平坦地帯の一部海岸地域を除いては水田として利用され、そのほかについては、畑地利用がなされている。

水田地帯の土質は、西部地域が富士川沖積土による良質乾田で占められるが、東部地域は臨床砂れき州、火山灰土及び泥灰の堆積による低湿田で、浮島沼地帯の中にある。

畑地帯は、富士火山灰の黒ボク土壌で表層を構成しており、腐植に富んでいるが、燐酸吸収係数が極端に高い特徴をもっている。作土層は、富士山麓はこの地域特有の富士マサ層が分布し概して浅く、愛鷹山麓は愛鷹ローム層が固定して概して深い。

富士川地区の傾斜地は火山噴出物より構成され、赤褐色を帯びており粘着力が少ない土壌である。一方、富士川沿岸は砂礫質土壌で作土層は概して浅い。

1 農業立地

(1) 気象条件

本市は、その位置地勢からして気候は概ね温暖で令和4年の平均気温は17.2℃、年間降雨量は2244.5ミリと、四季を通じてしのぎやすく気象条件に恵まれている。

(2) 耕地利用

本市の畑のうち、富士山麓一帯は富士マサと称される盤層が分布し、作土層が浅いため、野菜栽培などに利用され、部分的に作土層の深い大淵の東部地域では茶が栽培されている。

これに対して愛鷹山麓は作土層が深く急傾斜をなし、昔から茶・みかんが栽培されるなど概ね樹園地として利用されている。

また、岩本山地区は丘陵地をなし、茶・みかんが栽培されている。一方、富士川沖積土に属する西部地区の水田は施設園芸や洋菜類を取り入れるなど土地の高度利用がなされており、東部地区の吉永・須津・元吉原・浮島地区の水田は、ほ場整備事業が完了し、高度利用され、生産性も向上している。

富士川地区は、急傾斜地にキウイフルーツ・みかんが栽培されるなど概ね樹園地として利用されている。また、松野地区の平坦地は水田として利用されている。

耕地利用状況

		面積	構成比
市	域	24,495 ha	100%
耕 地	面 積	2,280 ha	9%
	畑	1,690 ha	7%
	田	586 ha	2%

資料:農林水産省 面積調査

(3) 水利

市内西部地域(富士地区、鷹岡地区)では、かんがい用水を潤井川・富士川の表流水に水源を求め導水しているが、東部地域(吉原地区)では、田宿川・滝川などの豊富な湧水を利用するものの、他の河川はほとんど表流水がないため、井戸・河川揚水などの施設を設置し農業用水の需要を満たしている。畑地については、岩本山・大淵・今宮・神戸地域では、畑地かんがい用水が整備されている。

2 農家数

本市の人口は、令和4年現在総人口249,094人、総世帯数109,727世帯である。農家人口、農家戸数においては、ともに減少傾向にあり、総人口、総世帯数に占める割合も減少してきている。

農家数の推移

区 分		平成22年	平成27年
総 農 家 数		2,799	2,438
専 業 農 家 数		282	328
兼 業 農 家 数	第一種兼業	227	142
	第二種兼業	779	599
自 給 的 農 家 数		1,511	1,369

単位:世帯

区 分	令和2年
総農家数	2,042
販売農家数	816
自給的農家数	1,226

資料:農林業センサス

※令和2年から区分の変更に伴い、
記載内容の一部を変更

区分の定義

販 売 農 家 : 経営耕地面積30a以上または農産物販売金額が年間50万円以上の農家

専 業 農 家 : 世帯員の中に兼業従事者が1人もいない農家

第一種兼業農家: 世帯員の中に兼業従事者が1人以上おり、かつ農業所得の方が兼業所得よりも多い農家

第二種兼業農家: 世帯員の中に兼業従事者が1人以上おり、かつ兼業所得の方が農業所得よりも多い農家

自 給 的 農 家 : 経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家